

1956年8月「彼のうちの庭で」(部分)

一椎名其二一

1887 (明治20) 年2月12日~1962 (昭和37) 年4月3日 秋田県角館町田町に生まれる。士族地主の出身。

秋田中学から慶応普通部に転入学。その後入学した早稲田大学を中退して、ミズリー州立大学新聞学科に学ぶ。その後、農業を志しフランスのクルッピ家の農場で働く。

1922 (大正11) 年にフランス人妻を伴い帰国。早稲田大学で教鞭をとるかたわら大杉栄の後を受けてファーブルの『昆虫記』を翻訳する。

1927 (昭和2) 年フランスに帰り製本業をしながら研究活動、 執筆活動に励む。74歳パリに死す。 (新潮社記念文学館)

展示資料

【図書、雑誌類】 『中央公論1958年1月号』 『中央公論1960年2月号』 中央公論新社 (湯沢市立図書館蔵) 『SOUVENIRS ENTOMOLOGIQUES』 FABRE, J.-H. 〈昆虫記〉 (本庄市立図書館蔵) 土の精 (筆と鍬) 堀井梁歩 (秋田県立文学資料館蔵) 他 【椎名其二書簡、はがき類】 石川三四郎宛(本庄市立図書館蔵)小牧近江宛 (秋田県立文学資料館蔵) 他 【参考資料】 昆虫標本 (秋田県立博物館蔵)、小牧近江、堀井梁歩関連資料 他

2019 **10**/**29**(火) ~ 2020 **4**/**3**(金) 新潮社記念文学館

開館時間 午前9時~午後5時 (12月~3月午後4時半閉館) 入館は閉館30分前まで休館日 月曜日(祝日は開館)、年末(12/29-12/31)

観 覧 料 大人(高校生以上)300円 小中学生150円※団体割引あり、仙北市民無料

〒014-0311 秋田県仙北市角館町田町上丁23 電話 0187-43-3333 (学習資料館共通)

アクセス : JR角館駅徒歩10分 秋田内陸縦貫鉄道角館駅徒歩10分 駐車場30台

主 催: 仙北市 仙北市教育委員会

協 力: 福屋靖子様 福井和世様 相澤マキ様 埼玉県本庄市立図書館

あきた文学資料館 秋田県立博物館 秋田県湯沢市立図書館

ファーブル昆虫記を訳した

椎名其二展





椎名其二 石川三四郎宛はがき 『フランス ドンム』 (本庄市立図書館蔵)



『昆虫記』アンリ・ファブル (本庄市立図書館蔵)



『- 梁歩吟客 -土の精 (筆と鍬第三)』 著者 堀井金太郎



『中央公論1958年1月号』 (表紙 吉岡堅二) 左 『中央公論1960年2月号』 (表紙 山本丘人) 右 中央公論新社 (湯沢市立図書館蔵)



『不盡 - 石川三四郎追悼号』 編集発行人 石川永子 (個人蔵)

間見える人間其二を紹介します。あわせて『昆虫記』にちなんだ其二から友人・縁者へ宛てた書簡、寄稿文他、当時の資料から垣―展覧会では『中央公論』誌「―自由に 焦れて 在仏40年―」、ブルの『昆虫記』を翻訳しました。 カ経由で渡仏し、一九二二(大正一一)年に帰国。その後、ファーーハハモ(明治二〇)年角館町に生まれた権名其二は、アメリーハハモ(明治二〇)年角館町に生まれた権名其二は、アメリ

■椎名其二作品本文より一部抜粋(本文まま)

『- 梁歩吟客 - 土の精(筆と鍬第三)』(著者堀井金太郎)大正5年1月1日発行

(1912、アムハーストにて)

『中央公論 1958年1月号 - 自由に焦れて在仏40年- 椎名其二』 (中央公論新社)

プロヴァンスのアマンジェが大きな紅い傘のように明るく咲き盛っている春の初め、『昆虫記』の著者ファーブルの自らつくった昆虫視察の庭園「アルマ」の中で、その息子ポール君からお父さんに関するいろいろな思い出話を聞いたことなど、私にはかぎりなくうれしいことだった。

『不盡 一 石川三四郎追悼号』 (発行兼編集人 石川永子) 昭和32年11月23日発行

しひな そのじ 私は石川さんから思想の上で直接学んだことはない。ただの一度だって斯うだったああだったと私に説教しようとしたことはない。石川さんに取っては凡ての人が思考の出来る動物だったのだ。そこにも個性の尊重にかんする石川さんの態度が現はれている。



椎名其二 石川永子宛書簡 (本庄市立図書館蔵)

1922 (大正11年)、帰国した其二の ために作られた建物。文学館の隣 接地に現存(個人所有 非公開)





